

岩田小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・ 全校児童の 2 割以上の外国籍児童が在籍していることもあり、自国や相手国のよい面を互いに尊重できる心を育む教育活動を日常的に行っている。
- ・ 自国の文化や身近な地域について関心をもつとともに友達の国の文化にも触れることで、多文化共生について考える学習を行っている。
- ・ 「岩田大好き」という子どもたちの思いをもとに、ESDを「岩田校区のことを地域の人から学ぶ」学習活動と位置づけ各学年で行っている。

・活動の実際

① 地域とともに行う活動（全校児童）

「岩田どんどこまつり」という行事では、子どもたちが地域の方々とふれ合う機会を設けることで、文化や伝統を大切にすることを育てることをねらいとしている。地域の団体やいろいろな職種の方が体験講座を開き、子どもたちは講座を回ってさまざまな体験を行う。

体験活動の講座は、PTA役員、消防団、社会体育委員、老人クラブ、そして教職員など、多くの団体がそれぞれの特性を生かして講座を開講している。そして、運動や楽器演奏、作品づくり、放水活動、SDGsを学ぶなどの体験を行う。どの講座も子どもたちが楽しく学べる魅力ある講座である。

また、職業体験の講座では証券マン体験や弁護士体験、動物のお医者さん体験など、ふだんできない職業体験を行う。体験を通して、自分の将来について考えるとともに、自分の生活には大勢の人が関わっていることに気づき、感謝の心を高める機会にもなっている。



岩田どんどこまつり
～地域の方から学ぶ～

② 多文化共生について考え、自分の思いを発信する活動（4年生）

4年生の総合的な学習の時間では、「みんなが主役！岩田～誰もが always positive に暮らせる町～」をテーマに学習した。外国籍児童に焦点をあて、今以上に誰もが過ごしやすい学校にしようと取り組んでいる。岩田団地の自治会長さんやブラジル人、フィリピン人の住民の方の話聞くことで、共生するために努力してきた地域の人々の思いや行動について知ることができた。そして、お互いが気持ちよく生活するために大切なことを考えていくことで、多文化共生が自分たちにとって身近な問題だということを実感できるようになった。



団地の外国籍の方に話を聞く

③ 公園探検を通して、地域とのつながりを実感する活動（2年生）

2年生の生活科の学習で、公園探検を行った。ふだんから楽しく遊んでいる公園に出向き、それぞれの公園のよさに気づくことができた。探検を通して生まれた疑問を、地域の方にインタビューをした。公園は地域の人たちのさまざまな目的のためにあること、清掃などを通して維持してくれていることを知り、今まで気づけなかった地域とのつながりを感じ、校区にますます愛着をもつことができた。



地域の人に公園について聞く